

小腸切除後の下痢 断痢湯で改善を

Q 六十六歳、男性。一五年前に直腸がんとの診断を受け手術。七年前、癒着性の腸閉塞（へいそく）を起し、また小腸を約五〇cm切除しました。以来、慢性的な下痢が続いており、体重が二〇kgも減りました。いつもみずおちがつかえる感じで、少し食べるとおなかがガスでパンパンにはつてきます。またおなかがゴロゴロいいます。

A 質問者は身長一六八cm、体重が現在三八kgとのことである。小腸切除をすればしばしば栄養や水分の吸収障害、腸のぜん動不穏などによる下痢、体重減少、腹痛などに長く悩まされることがある。

手術後の全身状態の改善に漢方薬が有効な例は少なくない。質問者の場合は下痢や腸内異常

発酵による、ガス、みずおちのつかえを訴えている。こうした症状には断痢湯（だんりとう）という処方がまず勧められる。

この処方には黄連（おうれん）・半夏（はんげ）・茯苓（ぶくりょう）・人参・附子（ぶし）など九種類の生薬からなり、江戸時代の漢方医学書には「痢病、諸薬、功を奏せず痢（下痢）止（や）み難き者にこの方を用いて験あり」などとあり、頑固で慢性的な下痢に有効であることが記されている。

大腸がんの手術手技の発達により、患部を切除して根治的に治すことができるようになったが、一方で、手術後の種々の機能障害に悩む方も多い。こうした症状を改善するには漢方薬の方が持ちこまが多い。